

## 黒木地区コミュニティ協議会

(鹿児島県薩摩川内市)

—多様な資源で新たな価値を創出するむらづくり—



地域のシンボル石倉を利用した直売所



鹿児島市内小学校との米づくり体験交流

### 地区・むらづくり団体の概要

当該地域は、棚田や農村公園、温泉などの豊富な地域資源を有し、水稻を中心とした肉用牛・園芸の複合経営を展開している。

しかし、高齢化率は40%を越え、農業後継者が不足し、児童数も減少するなど、過疎化、高齢化が進行し、集落の維持や基幹産業である農業の振興に危機感を募らせていた。

このため、市町村合併に合わせて、「黒木地区コミュニティ協議会」を設立し、若者や女性、Iターン者なども参加して、地区の活性化に向けた「黒木地区振興計画」を策定し、その実現に向けて地域一体となり取り組んでいる。

### 主なむらづくりの取組

#### ①農業生産面

高齢化や米価下落を背景に、規模拡大を図る担い手に農地集積し、WCS用稲や裏作での飼料作物の作付など、水田を有効に活用した営農体系を確立し、水稻と畜産による複合経営の安定化や耕作放棄地の発生防止につながっている。

「地域の農地は地域で守る」との住民意識が定着しており、国の交付金なども活用しながら、地区全体を対象にした広域の活動体制を再編・構築することにより、自治会やPTAなどが参加した地域ぐるみでの水路や農道の保全活動が行われている。

#### ②生活・環境整備面

未活用の石倉を再生して「石ぐら直売所」を開設し、高齢農業者等が生産した農産物や加工品等の販売に取り組み、地域内外の住民との交流を図っている。

鹿児島市の小学校との米づくりや農村文化を体験する交流活動が始まり、現在では県外の修学旅行生の受入も行っている。

地区内の小学生の親が中心となり、他地区在住の若年世帯へ働きかけを行い小学校の児童数を増加させるとともに、新たに学童保育「黒木わいわいクラブ」を設立し、地元酒造会社と連携した、オリジナル焼酎の製造・販売により運営資金を確保した。

## ■ むらづくりの特徴

地区の拠点機能をもつ「コミュニティ協議会」と地域資源を活かした活動を行う周辺自治会が連携した活動を展開し、コミュニティ機能を強化している。

担い手農家への農地集積や地域ぐるみの保全活動等により、基幹産業である農業を地域全体で維持・発展させる仕組みが構築されている。

学童保育「黒木わいわいクラブ」でのサツマイモの生産から焼酎の販売までの取組は、運営のための財源確保のみならず、農業を軸に子供達を地域ぐるみで育てる仕組みを構築している。

石ぐら直売所や小学校との農業体験、修学旅行生の受入などの取組をとおして、地域内外の住民との交流促進や高齢農業者の生きがいづくりなど地域に賑わいをもたらしている。

## ■ 地区データ

○所在地:鹿児島県薩摩川内市    ○総人口:760人    ○農業就業人口:158人

○総世帯数:352戸    ○農家戸数:158戸    ○主要作物等:水稲、繁殖牛等



担い手農家への農地集積による生産性向上



地域ぐるみでの棚田の保全管理作業



地域運営の学童保育による焼酎用サツマイモの栽培



復活した「暮れの市」で農産物等の販売